

平成31年2月 教育委員会会議録（要旨）【2月12日（火）】

<p>〔開会の宣告〕 遠藤教育長</p>	<p>平成31年2月定例教育委員会会議を開会する。</p>
<p>〔会議の成立〕 遠藤教育長</p>	<p>本日は、私の他5人の委員が出席しているので、この会議は成立する。 会議録署名人は、森委員と私とする。</p>
<p>日程第1 前回会議録承認</p>	
<p>遠藤教育長 遠藤教育長</p>	<p>1月24日開催の平成31年1月定例教育委員会会議録を承認することに異議があるか。 (異議なしの声) 異議なしと認め、前回の会議録を承認する。</p>
<p>日程第2 事務局報告</p>	
<p>(1) 事業・行事等報告について</p>	
<p>前回会議（H31.1.24）以降の事業・行事報告（主なもの）</p>	
<p>1月29日（火）</p>	<p>第5回校長・園長代表者会</p>
<p>今後の予定（主なもの）</p>	
<p>2月15日（金）</p>	<p>第5回校長・園長会</p>
<p>18日（月）</p>	<p>熊本県市町村教育委員大会</p>
<p>平成31年第1回定例市議会（～3月8日）</p>	
<p>20日（水）</p>	<p>教師塾「きらり」閉講式</p>
<p>25日（土）</p>	<p>学校業務改善アドバイザー事業事例報告会</p>
<p>3月 1日（金）</p>	<p>必由館高校・千原台高校卒業式</p>
<p>4日（月）</p>	<p>総合ビジネス専門学校卒業式</p>
<p>9日（月）</p>	<p>市立中学校卒業式</p>
<p>13日（水）</p>	<p>青少年問題協議会</p>
<p>19日（土）</p>	<p>市立幼稚園卒園式</p>
<p>20日（水）</p>	<p>市立小学校卒業式</p>
<p>22日（金）</p>	<p>総合教育会議</p>
<p>修了式・終業式</p>	

日程第3議事	
・議第10号 熊本市立特別支援学校学則及び熊本市立特別支援学校の管理運営に関する規則の一部改正について	《中村 学務課長 提出理由説明》 〔採決〕 【原案どおり承認された】
・議第11号 熊本市立小学校及び中学校通学区域の一部改正について	《中村 学務課長 提出理由説明》
遠藤教育長	この改正は、民家の建設の度に行うのか。
中村課長	田畑など、元々番地が表記されていない場所に新たに家が建てられると、新しく住居表示がなされ、このような改正が必要になる。年度分をまとめて、毎年1度改正を行っている。
遠藤教育長	新しい住居表示に関する情報は、必ず教育委員会に知らせようになっているのか。
中村課長	具体的に、新しい地番が地域政策課で付された後、各区の区民課から学務課に校区について問い合わせがあるという流れで、わかるようになっている。
西山委員	新しい地番に転居して、どの小学校区が決まっておらず、行くことができないという問題は発生しないのか。
中村課長	校区境でなければ、新しい地番でもどの校区か大体すぐに判断できる。校区境辺りである場合には、地域の自治会等の意見を確認するなどの協議が必要となり、判断に少し時間がかかる場合がある。
森委員	協議に時間がかかる場合でも、学校に行かせないというわけにはいかず、どのような対応を行っているのか。

<p>中村課長</p>	<p>家の建築中に協議を行い、居住開始までには校区が決定している状況である。</p> <p style="text-align: center;">〔採決〕 【原案どおり承認された】</p>
<p>日程第4</p>	
<p>・報告（1）あおば支援学校の概要について</p>	
<p style="text-align: center;">《西 特別支援教育室長 報告》</p>	
<p>西山委員</p>	<p>教員数はどれくらいか。</p>
<p>西室長</p>	<p>まだ学級数は確定していないが、12全学級を設置するとして、校長、教頭、担任、養護教諭、事務職員等合わせて、32名程度になる見込みである。</p>
<p>西山委員</p>	<p>募集方法については、全学年を一斉に募集するのか。</p>
<p>西室長</p>	<p>平成さくら支援学校は、毎年1学年ずつ募集学年を増やしていったが、あおば支援学校は9学年一斉に、転校を含めた募集を行う。県立学校や市内の小中学校からの転校生が主になるため、熊本県と受入方法について今後検討を行っていく予定である。</p>
<p>西山委員</p>	<p>1学級6人と定員が少ないのに対し、たくさんの希望者が出るのではないか。その場合の選抜方法については、具体的に検討しているのか。</p>
<p>西室長</p>	<p>そのことを一番懸念しているところであるが、県立支援学校で行った意向調査の状況から、今のところ希望者が多数になることはないの見込んでいる。ただし、今後希望が増える可能性もあるため、今後も保護者の意向を確認しながら、県立支援学校への就学とどのように分けていくか、熊本県と少しずつ話を</p>

	<p>詰めている段階である。</p>
西山委員	<p>小学校の科目の中に理科がない。子どもは、例えば身近な植物や昆虫を題材にした教育に興味を持つと思うが、そのような内容を扱う理科がないのはどうしてか。</p>
西室長	<p>特別支援学校の学習指導要領に基づいて学習内容を決定しており、支援学校の教科別の指導の形態としては、そのような活動は表れていないが、生活科の中に身近な植物や昆虫に触れる活動はあり、そのような活動を含めた学習計画となっている。</p>
遠藤教育長	<p>支援学校における生活科も、理科と社会が合体したような内容か。</p>
西室長	<p>支援学校の学習指導要領には以前から生活科という科目があり、その後に小学校で生活科という科目ができた。教科名は同じだが、支援学校での学習内容には、日常的な金銭の取り扱いをはじめ、身の回りのことを自力で行うための学習など、別のものも含まれる。</p>
遠藤教育長	<p>「日常生活の指導」と「生活」はまた別のものなのか。</p>
西室長	<p>日常生活の指導は、日常生活の諸活動について、自分で見通しを立てて主体的に活動できるように、計画的に毎日繰り返し行う指導である。そして、その指導内容は、生活科をはじめ各教科で学ぶ、日常生活や社会生活において必要で基本的なものである。</p>
泉委員	<p>熊本市全体から通学されることになると思うが、自家用車で通学が多くなると予想されるのか。それとも何か別の交通手段を考えているのか。また、通学時の安全について、対策は検討されているか。</p>
西室長	<p>他の政令指定都市と違い、学区を定めていないため、県立の支援学校と通学区域が重なる。通学手段は、保護者の送迎や自力通学が考えられる他、現在スクールバスの導入を検討しているところである。</p>

泉委員	中学校の標準服について、ボタンが苦手な子どももいると思うが、シャツはポロシャツか。
西室長	かぶる形式の白のポロシャツである。
西山委員	先ほどの泉委員のご質問と同じく、通学上の安全の問題を心配している。あおば支援学校は坪井川沿いにあり、坪井川は白川よりも氾濫の危険性の高い河川である。市のハザードマップでも危険性が高い地域とされており、大雨の時など、他の小中学校よりも防災上の配慮が必要と考えられる。
西室長	保護者との連絡方法等について、しっかりと計画を立てていく予定である。校区が市内全域であり、遠くからの通学者もあるため、迅速な判断が必要であると考えている。
・報告(2) 広報広聴関係について	
日程第5 自由討議	
・テーマ：市立高等学校及び市立総合ビジネス専門学校のあり方について	
遠藤教育長	今月は「市立高等学校及び市立総合ビジネス専門学校のあり方について」をテーマに討議を行う。討議を始めるにあたり、本市の現状等について、事務局から説明をお願いする。 《塩津部長・松島指導課長 説明》 (塩津部長・資料7-4) ・市長公約にも掲げられている事項であり、本日は様々なご意見をいただければと考える。 ・必由館高等学校は、明治44年に開校し、平成23年に創立100年を迎えている非常に歴史のある学校である。 ・気品と節度のある態度を養い、正しい判断力と実践力を身につけた、社会に貢献できる心豊かな生徒の育成を教育目標としている。

- ・平成13年度から普通科の国際コース、芸術コース、それから被服デザインコースを設置。
- ・部活動も盛んであり、体育部・文化部ともに全国レベルで成果を上げている部活もある。
- ・進路状況は、ほとんどが進学であり、国公立への進学が約30名、私立大学へは160～200人程度進学している。就職する生徒は約20名である。

(松島課長・資料7-5～8)

- ・千原台高校は、普通科と情報科の2学科を設置している。
- ・大きな特徴として、「健康スポーツコース」という、スポーツ文化を理解・実践する科が設けられていることが上げられる。主に運動部活動に積極的に取り組む生徒がこの課程を履修している。
- ・部活動も盛んで、つい先日、陸上部が全国高等学校駅伝競走大会にも出場したところである。
- ・進路は、就職及び専門学校への進学が多い状況であり、実業系の高校である。
- ・総合ビジネス専門学校は、公立のビジネスの専門学校であり、全国に2校しかないうちの1校である。
- ・学費の安さが一番の特色である。
- ・現在来年度の生徒募集が進められているところであるが、例年、応募人数は定員と同じくらいの状況である。
- ・必由館高校、千原台高校、総合ビジネス専門学校について、存続のあり方も含めて大きな視点で検討し、抜本的な改革を行うため、来年度高校改革検討委員会を設置し、来年度内に中間報告、2020年度に最終答申を受けることを目標としたい。
- ・様々なご意見をいただきながら、今後の日本、世界のあり方を見据えて、社会の変化に応じた教育内容、学校のあり方など、抜本的な見直しを進めていく方向性で考えている。
- ・先日、教育長を初め津田部長、そして指導課の高校担当で震災復興のアドバイザーの皆様のご意見を伺う機会を設けたところである。色々なご意見をいただきながら今後検討を行う。

遠藤教育長

今説明があったように、先日の復興アドバイザー会議でも意見を伺った。津田部長から、意見の紹介をお願いしたい。

津田部長

- ・2月4日に東京で行われた復興アドバイザー会議で、本改革

遠藤教育長

に関する委員の意見を伺った。委員は大学の先生、経営者等6名であった。

・高校・専門学校の時点から改革しても遅いのではないが、前段階の小学校、中学校あたりからの教育が必要ではないかという意見があった。

・人材育成という視点で、熊本がどんな人材が欲しいかということを確認する必要があるという委員もいらした。

・特に高校改革は、教育内容の改革ということであり、そのためには、何かをやるという気持ちなど、刺激を持たせることのできる教師や教育課程が必要ではないかという意見もあった。

・一番印象に残ったのは、日本の教育において、覚えることに関しては、世界でも長けていると思うが、考え、分析することには弱いため、学び方を学ぶような教育の場を目指してはどうかという意見であった。

・また、社会人になった後の学び直し、リカレント教育も必要ではないかという意見もあった。

目の前の課題は、少子化により競争倍率が下がっていることである。専門学校では、コースによって定員割れの状況が見られ、千原台高校についても若干低下傾向にある。必由館高校は今のところ低くはないが、今後、私立学校の無償化、少子化という中で安心できる状況とは言えず、果たしてこの2高等学校1専門学校という体制をどうするかということも含めて考えなければならない。そこで、新年度から事務局内に検討委員会を設置し本格的に構成を考えるところであるが、その前に、まず委員の皆様からのご意見を伺いたいというのが今回の趣旨である。

事務局案では、高校の今後の方向性として、2高校のうち1校では、国内外で活躍する人材・グローバルリーダーを育成する、もう1校では、熊本の課題解決に資する人材・ローカルリーダーを育成することが上げられている。また、専門学校では、熊本の具体的な課題に必要とされる人材を育成することを今後の方向性として上げているところである。

先程、津田部長から復興アドバイザー会議について報告してもらったが、復興アドバイザーの方々からは、人生100年時代であり、最初の18年間だけを考えるのではなく、残りの82年間の部分として、高校卒業後の、30代、40代等におけ

	<p>るリカレント教育も含めて考えていく必要があるとの意見もあった。専門学校でそのような部分を担っていく可能性もあり、また、高校は義務教育ではないため、高校に20代、30代、40代の方々を受け入れる、そのような高校があってもいいのかもしれない。そのようなことも含め、今の枠にとらわれず、このような学校があったらいいのではないかと、熊本に今後、このような学校があったらおもしろそうだなというご意見を伺えればと思う。</p>
西山委員	<p>そもそも熊本市には県立高校、私立高校が多数ある。その中に市立高校がある理由、すなわち、市立高校の存在意義はどのように考えられているのか。</p>
遠藤教育長	<p>まさにその点をここで考えるということである。仮に存在意義がないとすれば、なくてもいいという考えも含めてご意見を伺いたい。</p>
西山委員	<p>これまではどのような存在意義を認めて市立高校を運営してきたのか。進学・就職状況から、国公立大学に多数進学している学校ではなく、学力が中間層程度の生徒を集めて教育をしている、千原台高校は元々商業高校からスタートしているなど、色々な特徴がある中で、どのような存在意義を見出してきたのか。生徒たちも市立高校にどのような価値を見出して進学してきたのか。そこをきちんと分析して対応を考えるべきである。例えば、今後グローバルリーダーの育成を目指すとして、現在そのような志をもった生徒が入学してきているのか、また、その養成ができる教師がいるのか等、現状の分析を行った上で考えなければ、絵に描いた餅になってしまうおそれがある。</p>
松島課長	<p>まず、必由館高校は音楽・美術・書道について専門的に学ぶ芸術コースを持つという大きな特色があり、また、国際コースもあることから、様々なニーズに応え得る受け皿として機能していると考えられる。国公立大学に多数進学している高校ではないが、場所も熊本市中心部に近く、多様性を求める子どもたちにとって、存在意義がある高校であると認識している。</p> <p>千原台高校は実業系で、普通科に国際経済コース、健康スポーツコース、情報科にOA会計コース、経営情報コースを設置し、時代のニーズに応える意図を持って運営しており、こちら</p>

遠藤教育長

も子どもたちの様々なニーズに応え得る高校であると考えている。

両校とも他の公立高校にはない多様性を持っているという点で、存在意義があると考えている。

ただし、私立高校にもそのような多様性を持つ学校があるため、あくまで公立高校としてということである。

必由館高校は明治44年に開校し、100年以上の歴史がある。千原台高校は昭和34年に開校しており、これはこれから高度成長という時期であり、人材育成のニーズが非常に高まって、県立高校だけでは学校が足りなかったということも学校設立の理由の一つかもしれない。そう考えると、設立当初の存在意義と、今の存在意義は大分変わってきている。松島指導課長から説明があったように、単に県立高校だけでは物理的に足りないので市立があるということではなく、現在の市立高校は、県立にはない特色を持った高校であるとの位置づけとなっている。但し、私立と比べて特色があると言えるのか。

西山委員

競合するのは私立高校だと思う。市立高校の魅力は、授業料が安いことである。一方、私立の魅力は中心部にあって便利なおところである。熊本学園大学付属高校や開新高校、九州学院高校も便利な場所に立地しており、ずっと魅力的である。千原台高校の希望者が少なくなっているのは、市中心部から離れていることにも関係があると思うが、その中で授業料が安いという魅力から進学する生徒もたくさんいると思う。しかし、今後、高等教育の無償化の動きが進み、私立高校の授業料が軽減されるとなると、市立高校の魅力はなくなり、私立に流れていくということも十分考えられる。そこも念頭に置いて計画を行わなければ、頓挫するのではないかと感じている。

遠藤教育長

おっしゃるとおり、進学希望であれば県立高校に行き、例えばスポーツなど専門的なことに特化して取り組むことを希望するのであれば私立高校に行く、という選択が考えられ、今後市立高校は、県立でも私立でもない学校を熊本市に設置するという第三の存在意義、方向性を持っておかなければならない。熊本市に、熊本だけではなく、日本中にないような学校で、全国から人が集まるような学校、こういう学校があったら行かせてみたいと思われる学校があるといいのではないかと。それぐらいの学校でなければ、県立高校・私立高校でいいということにな

小屋松委員

ってしまうと思う。

現在の教育は、いい高校、いい大学に行って、一流企業に就職することを目指すという流れの中にある。一流企業がどうい
うものかもわからずに、とにかくそこを目指すため行われている
気がし、それでいいのかと考えるところである。どこの高校
にも普通科があり、そこに生徒を集めて、この大学に何人合格
しました、ということ成果としている中、市立高校については、
今後も普通科があるということがいいのか、そうではなく、
熊本市にしかないような学校を考えていくことが必要だと思
う。

また、常に思っていることは、小学校からのキャリア教育が
系統立てられていないことである。そこで、キャリア教育を体
系化する中で、高校の在り方もキャリア教育の中で捉え、小学
校、中学校でのキャリア教育が高校でさらにもっと広がって
いく仕組みにしてはどうか。特に現在必由館高校には、芸術コ
ースや被服デザインコースがあり、将来そのような道を目指す子
どもたちには、あの高校に行けば専門的なことを学ぶことが
できると明確に示して、将来のためにこの高校に行きたいとい
う流れが作れたらいいと思う。市立の小学校、中学校から市立
高校までの一つのキャリア教育のモデルができたらいいいと思
える。

遠藤教育長

キャリア教育という視点で見ると、先ほどの復興アドバイザー
からの提案にもあった高校卒業後のリカレント教育も含めて
考えると、専門学校と高校とを合体したような学校というの
もあり得るのかもしれない。

小屋松委員がおっしゃったように、少しでもいい高校に行っ
て、いい大学に行って、いい企業を目指すというような流れを、
熊本では主に県立高校が担っている状況である。いい高校とは、
すなわち偏差値が高いということであり、そのような高校がい
いい高校という序列になっている中で、市立高校も少しでもいい
偏差値の学校にしましょうという方向では意味はないと思う。
第2、第3の進学率の高い高校を作っても仕方なく、そうでは
ない高校を目指すべきだと考える。

泉委員

中学校までは特別支援学級があり、その中で知的障がいや情
緒障がいのある子どもの受入を行っている。中学卒業後、知的

	<p>障がいの子どもには特別支援学校の高等部があるが、情緒障害の子どもの行く先がなく、通信制や単位制の学校に入学し高い学費のサポート校も利用しているという状況である。知的能力は高いが、コミュニケーションが苦手、社会不安を持っているといった子どもの受入を公的な学校の役割の一つとすることができるといいと考える。</p> <p>これから働き方改革が進み、在宅での仕事も増えてくると思われ、その点から見ても、通信制の公立学校があってもいいと考えられ、実際ニーズもあると思われる。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>通信制高校にするということか。</p>
<p>泉委員</p>	<p>そのような課程もある学校にしてはどうかと考える。今行き先がない子どもたちの受け皿となる部門を設け、就労するためのスキルを上げる場などになれば、とても意義のある学校になるのではないか。</p>
<p>西山委員</p>	<p>現在でも、県立湧心館高校に通信制課程が設けられている。</p>
<p>泉委員</p>	<p>県内の公立通信制高校は現在一つだけしかないので、非常に倍率が高い状況である。また、もっとカリキュラムを多様にし、様々な子どもに対応できる学校があるといいと思う。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>最近、N高等学校というインターネットで学ぶ通信制の高校ができ、今7～8千人の生徒がいて、フィギュアスケートの紀平梨花さんも生徒と聞く。プロのプログラマーなど特色を持った専門家に教わることや部活動もでき、通信制で勉強する以外に通学でも様々な活動ができる学校ということで人気があるようである。公立の通信制で、今までとは違う、様々な生徒を受け入れられる学校というのも一つの方向性として考えられる。</p>
<p>出川委員</p>	<p>多様な内容で学べるということはもちろん大事だが、高校を決める際、親はその先どうなるかということに一番関心があると思われ、その次の方向性を提示できるようにすることが必要だと考える。また、東京に昼から夜にかけて授業が行われる高校があり、中学校では学校に行けなかった生徒も昼からなら行くことができ、また、その学校は進学にも力を入れており大学進学率も高く、生徒自身がその高校を選んで通うほど人気が高</p>

	<p>いと聞く。このように、様々な子どもに合わせた学校の形態がとれるといいと思う。更に、大学には行きたくない子どもも一定割合いると思われ、せっかく専門学校と高校があるので、これを合体させ、大学には行かないが専門性は身に付けたい生徒を対象に、ビジネス関係に特化した5年クラスを設ける案もあると思う。</p>
遠藤教育長	<p>高校卒業後どうするか。大学進学を目指すのであれば、今出川委員がおっしゃったような昼からの高校など、他の学校とは違う方向で大学進学を目指す、あるいは専門学校とつなげて、就職や起業など社会に出ることを目指すなどが考えられる。</p>
西山委員	<p>大学進学を目指すということであれば、早稲田大学やICU(国際基督教大学)などネームバリューのある大学と提携して、その附属学校を誘致すると特色が出せるのではないかと。</p>
遠藤教育長	<p>ネームバリューのある大学に進学することができる附属高校というのは大きな特色の一つになると思う。</p>
西山委員	<p>事務局案にグローバルリーダーを養成することがあるようだが、それを高校だけで行うのは難しく、グローバルリーダーコースを設置している大学との連携が必要である。</p>
遠藤教育長	<p>大学ではなく、小中学校との一貫校とする方法もあるかもしれない。小中高一貫で海外の大学進学を目指す、ということも考えられる。</p>
森委員	<p>元々、必由館高校は女子高で、女子教育を目的に設立された学校である。少子化などの時代の流れとともに共学となり、様々なコースも設置されている。千原台高校と総合ビジネス専門学校は、先ほどの話にあったように、高度経済成長期に、特に商業系の仕事ですぐ役に立つ大勢の人材を送り込むためにできたという経緯がある。一昔前は、仕事に役立てるためにパソコンの技能を教えていたが、今や小学生がタブレットを使う時代になっており、高校や専門学校でパソコンの使い方を教えるコースを設けていても時代遅れにしかない。</p> <p>また、キャリア教育として、美容や医療事務関係、調理、服飾関係を考えてみても、それぞれに特化した専門学校はたくさん</p>

小屋松委員

んあり、今までノウハウがない市立学校がその後追いをしても
厳しい状況である。

そこで、2つほど今後の方向性が考えられると思う。1つは、
現在必由館高校にあるような芸術、美術、書道などの専門コー
スを伸ばすことである。今あるものをさらに研ぎ澄ますやり方
に替えて、具体的には、先ほどの復興アドバイザーからの意見
にあったように、教える人から刺激を受ける、例えばプロの書
道家から字を書く心構えや書き方について教えてもらうという
ようなコースにするといいのではないか。地元でそういう人が
いなければ、ネットで結ぶことができ、一人ではなく、たくさ
んのプロが授業を行い、子どもたちが刺激を受け、能力を磨き、
意識を高めていくというやり方があると思う。

もう一つ、国際化という話もたくさん出たが、九州に立命館
アジア太平洋大学(立命館APU)という大学があり、そこは
日本人より外国人の学生さんのほうがはるかに多く、そのよう
に留学生を受け入れて、日常的に留学生と日本人の子どもたち
と一緒に学んでいくことによって、本当の意味の英語力や国際
性を身につけるといふ考え方を取り入れてもいいと思う。

留学生にはわざわざ日本に来てまで果たしたい目的、就きた
い仕事があるのだと思う。一方、先ほど言ったように、日本の
今の教育の流れの中でいくと、これをやりたいという動機づけ
が遅く、とりあえず大学に行ってそこで考えようということに
なっている。もう少し早い段階で、これをやりたいという動機
づけを持つ機会をつくってあげると、そこで初めてそれに向か
って本人が学ぶ意欲につながっていくと考えられ、動機づけを
補う方法を教育システムの中に取り入れる必要があると思う。

また、グローバリゼーションという言葉をよく耳にするが、
私は逆にローカルなことをしっかり理解することが、結果的に
グローバルな場面に活かされてくると思う。無いものを見るよ
りもあるものを見る、ローカルをしっかり知る、例えば、まだ
気づいていない熊本の良さがたくさんあるということに目を向
けていくと、それが結果的にはグローバルにつながっていくと
考える。

今私は、総合ビジネス専門学校で取り組みを行うと面白いのは
ないかと思っており、非常に期待をかけているところである。
総合ビジネス専門学校に観光サービスコースというのがある。
一度見学に行った際、ホテルのフルコースのセッティングもあ

	<p>り、そのような勉強をし、ホテルなどへの就職が多いと思われるが、例えば熊本のことをしっかり勉強し、熊本専門の観光ガイド士といった資格をつくり、熊本の情報発信を行う人材を育成してはどうか。これからインバウンドによる交流人口を増やそうという時でもあり、総合ビジネス専門学校で2年間学んだら、そういう資格が取れるというような、希望が持てるようなシステムをつくるというのではないかと考える。</p>
遠藤教育長	<p>先程話に出た立命館APUについて、留学生にはこれを学びたいという目的があるかもしれないが、設置主体である大学は留学生を集めて何をすることが目的なのか。</p>
西山委員	<p>特に金融や経済を中心に学ぶ大学であり、グローバル経済の中で活躍できる人材育成を目的としていると思う。東南アジア各国やインドに、同大学の同窓会のような組織があり、留学生を通じたネットワークができており、そこからさらに留学生を送るルートのようなものができている。その点から、大学のグローバル展開の一つであると理解している。</p>
遠藤教育長	<p>市立高校だとそのような方法を取ることは難しいが、留学生を集めるというのは一つの方向性として考えられる。</p>
森委員	<p>先程留学生と言ってしまったが、私がイメージしたのは、在日の外国人の子どもたちである。以前の自由討議でも外国にルーツを持つ子どもたちの対応について話し合ったが、そのような子どもたちの受け皿をつくることで、その問題の解決に当たるとともに、日本の子どもたちが英語力や国際性を身につける環境づくりもできると考える。</p>
小屋松委員	<p>以前、熊大の学長から、何故熊本大学に留学生をたくさん受け入れるのか話を聞いたことがある。熊本で学んだ学生たちは、それぞれの国に帰り、高い職位につくことが多く、その国との関係をつくっていくことができるため、留学生誘致を行っているということだった。しかし、その留学生たちが自国で高いポジションにつくということは、高い意識を持って学んでいるからだと思う。日本人には、高い意識を持って海外で学ぼうという意識は少ないように思われる。</p>

平成31年2月 教育委員会会議録(要旨)【2月12日(火)】

遠藤教育長	熊本市として、どのような戦略をとるかということにも関係すると思われる。
小屋松委員	熊本に有益な人材を育成するという観点も必要と思われる。
西山委員	将来、AIが急速に発達し、AIに職業を奪われるということが話題になっている。そのような将来の動向も見据えた上で、学科の構成等について考えていかなければならないと思う。
小屋松委員	現在は情報にあふれた時代であり、その情報の分析にAIを活用するのだと思うが、たくさんの情報に振り回されることなく、その情報の中から必要なものを選び、活用できる人材を育成しなければならない。そのためには、自分で考える力を身に付ける教育が必要であり、高校教育でそのような対応ができるといいと思う。
遠藤教育長	来年度からの検討にも活かせるような貴重なご意見をたくさんいただくことができた。今日のご意見も踏まえながら、事務局内でも検討委員会の中で検討し、適宜ご報告し、更にご意見を伺いながら進めていきたいと思う。今後ともよろしく願いしたい。
〔閉会〕	
遠藤教育長	本日の日程は全て終了したので、平成31年2月の定例教育委員会会議を閉会する。